

環境への負荷が少ない商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク

GPN Green Purchasing Network

CONTENTS

- | | | | |
|--|---|-----------------|---|
| ■特集「食のグリーン購入」 | 1 | ■エコに学べ 有限会社ブルーム | 7 |
| ■グリーン購入法5周年記念フォーラム | 4 | ■リレートーク 株式会社日吉 | 8 |
| ■REPORT | 6 | ■会員発工コ商品情報 | |
| 「CO2ダイエット買い物大作戦」実施
「びわ湖環境ビジネスメッセ」出展 | | | |

特集「食のグリーン購入」

新たなCSR活動として、「食のグリーン購入」はじめませんか？

滋賀県では、琵琶湖と共に環境と調和の取れた農業を進めるため、平成15年に環境こだわり農業推進条例が定められ、生産者と消費者を結ぶ食のグリーン購入の展開による、県民みんなに支えられた環境こだわり農業を広げる取り組みが進められています。

食の安全安心を確立することに加え、「環境」という評価基準を取り入れた滋賀県独自のこの制度は、今後のわが国での環境保全型農業のあり方を先導するものとして高く評価されています。

また、地域で生産された新鮮な農産物を地域で消費する「地産地消」の取り組みは、資源循環や食育の観点から不可欠なもの。その一方で「輸入してまで食べ残す」と指摘されている「食品残さ」の量をいかに減らしていくのかということも重要な課題であると思います。

食のグリーン購入研究会では、環境こだわり農業の拡大と地産地消の取り組みを進めて行くために、30名以上の従業員を有する滋賀GPN会員を対象に、食堂や給食での「環境こだわり農産物」や県内農産物の利用状況などについて調査いたしました。

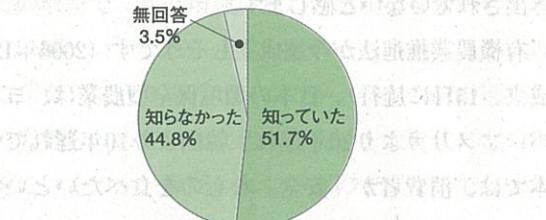
アンケートの中で「環境こだわり農産物の利用拡大をはかるために必要なこと」に対しての意見を求めました。「消費者に対するPR」「学校・家庭内における食育」などの意見が多数ある中、「企業の経営者の理解」という記述もありました。

企業においてはCSR（企業における社会的信頼度）の一環として、これからは企業内での食のあり方を見直す動きが強まることも予想されます。今後の企業体質の強化の一助とするためにも、「食のグリーン購入」に取り組む事業所が、この滋賀から広まることを節に願います。（食のグリーン購入研究会）

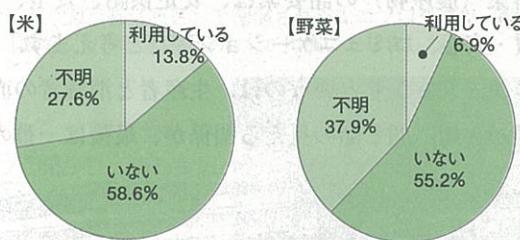
●調査時期／2006年9月

●アンケート発送数／204 回収数／93 回収率／46%
(以下は、食堂を有する29事業所の回答)

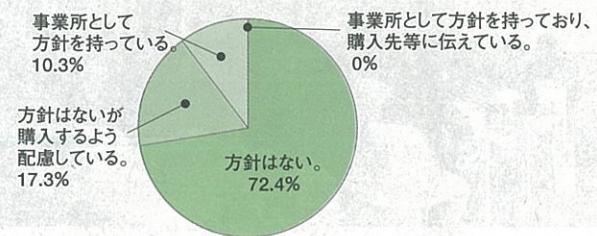
Q1 滋賀県が認証している「環境こだわり農産物」をご存知でしたか。



Q2 あなたの食堂では「環境こだわり農産物」を利用されていますか。



Q3 「環境こだわり農産物」の利用についての方針がありますか。



特集「食のグリーン購入」

「滋賀から始める食のグリーン購入セミナー」

講演内容

持続的循環型地域社会を目指して

食のグリーン購入研究会では「人と農産物と琵琶湖のいい関係づくり」を進めるために、昨年12月5日、環境こだわり農産物普及のための拠点である琵琶湖大橋米プラザにおいて「滋賀から始める食のグリーン購入セミナー」を開催しました。講演、パネルディスカッションの後、参加者の交流を兼ねた環境こだわり農産物の試食会を行い、企業、NPO等から70名が参加し、持続可能な食への思いを共有しました。

(株)農林中金総合研究所
特別理事 蔦谷 栄一さん

21世紀の重要な課題は何か。目下直面している大きな問題をあげれば、食の危機、農の危機、教育の危機だと言え、それらがまとまって「地域の危機」に繋がっているのではないかと考えます。そうした意味でこれから正に子どもたちを守っていくために何が重要なのかを「FW3E」と整理してみました。FはFood(食と農) WはWelfare(福祉)、そしてエネルギー(Energy)、環境(Environment)、教育(Education)ですが、これらの本質にあるのが「いのち」であると考えます。今、その「いのち」が形だけの扱いをうけるにとどまり、充分に引き出されていないと感じます。

有機農業推進法が今週成立しそうです(2006年12月8日成立、15日に施行)。日本の環境保全型農業は、ヨーロッパ、アメリカより20年遅れ、韓国より10年遅れです。日本では、消費者が「安全」なものを食べたいというところから、環境保全型農業、有機農業へという流れになっていました。

農業(農産物)の諸要素は、安定供給、安全、価格、品質・安心、コミュニケーション等だと考えます。「コミュニケーション」というのは、生産者と消費者の直接的関係が大切。顔と顔の見える関係が、最後は一番の決め手だと思います。「地産地消」というのは農業の発展だけではなく、地域の発展のために重要なことです。

私の言う「地域社会農業」とは、作って終わりではなく、消費者と一緒に作っていく農業、消費者が参画していく農業であり、そうした農業こそが今後の地域レベルそして地球レベルでの持続的な発展に繋がると考えます。企業における給食、自宅に帰ってからの食生活も、すべて農業と繋がっています。

企業の社会貢献が企業生命を大きく左右する時代です。企業のCSR活動として、ぜひ「食」を取り入れていただきたい。企業がこうした問題にかかわっていくことが、世の中を変えていく力となっていくと考えます。



▲セミナーの様子

パネルディスカッション

人と農産物と琵琶湖のいい関係づくり

蔦谷先生にご講演いただいた後、生産者と購入者の代表によるパネルディスカッションを行いました。パネリストのお話をかいつまんで紹介します。

◆パネリスト

川口 世嗣さん(糠塚町生産組合 組合長)
梅田 保誠さん(滋賀県立大学生活協同組合 専務理事)
浅井 長美さん(ダイキン工業(株)滋賀製作所 安全衛生担当課長)

◆コメンテーター

蔦谷 栄一さん(株)農林中金総合研究所 特別理事

◆コーディネーター

藤井 純子さん(滋賀県環境生活協同組合 理事長)

川口さん: 10年ほど前から「自分たちの農業を守るためにどうすればよいか」という課題に共同で取り組んできました。安全で安心な農産物が提供されるかどうかは、全て生産者に委ねられています。環境こだわり農業については、モデル地区として準備段階から県に協力し、直売所での販売を通じて消費者との顔の見える関係も確立できました。儲けに繋がらなくても、この取組みが地域の環境を守り、食の安全安心につながると確信しています。

梅田さん: 大学で食堂を運営する中、学生たちに、滋賀県のおいしいものを知ってもらいたい。安全なものを食べさせたいとの思いで食材を選び、できるだけ滋賀県産を使用するよう努めています。米から始まり、しょうゆや味噌も地元のものを使用しています。山の管理も含めて地域全体

で環境を守るためには、今一度、地元の食材に目を向けるべきだと思います。

浅井さん: 水の使用量と人件費の削減も兼ねて、食堂から出る排水に対して油等を除去する装置をつけたり、残さを減らすために定食メニューをカフェテリア形式に変えたりしています。水の汚濁防止に、1998年度から無洗米を使用。今年からは環境こだわり米の無洗米を使用しています。約300円という低価格で、容器を含めた廃棄物の削減、短時間での調理、栄養面など工夫しています。従業員の健康を考えると、食堂の環境は大変重要ですね。

藤井さん: 食育の現場として、小中学校の学校給食や大学の食堂での取組で、人と環境こだわり農産物を繋がらせることできればいいですね。企業がどのくらい従業員の健康を考えて「食」に取り組んでいくのか、食べる側の選択と企業側の姿勢も含めて、食文化、食生活を次世代にどのように伝えていくのか、今問われているのではないでしょうか。

「エコプロダクト2006」 出展参加報告

昨年12月、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催されたエコプロダクト(開催期間:12月14~16日)に「食のグリーン購入研究会」が出展いたしました。

「人と琵琶湖と農産物のいい関係づくり」への取り組みをアピールすべく、今回初めてエコプロに出展をさせていただきました。出展をしたのは「万物のいのちを支える“食”の未来」というテーマのもとに、「原材料をえらぶ」「加工する」「売る・運ぶ」「調理する・食べる」「リサイクルする」の5つの角度から、GPNをはじめとして食品メーカー13社とNPOなど10団体が出展するゾーンの一角。食のグリーン購入研究会の活動報告と滋賀県での「環境こだわり農業」の紹介に加え、フードマイレージの問題を実感してもらうためのパネル展示を行った。環境こだわりの認証マークが貼られた白菜・人参・ミニトマトなどの野菜と納豆、日本酒などの加工食品の現物には足をとめて手にする人も多く、特に人目を惹いていたようだ。

GPNのコーナーでは、食品を選ぶためのガイドラインをつくる

前段階として一昨年から10回にわたって開かれ、私も参加させてもらった「食品研究会」での検討内容をもとにした展示により、環境に配慮した食品を選ぶことが安全で安心な食につながることを訴えていた。この1年、食のグリーン購入に関連した大きな出来事として12月8日に「有機農業推進法」が制定されるという嬉しいニュースがあり、また水産物を環境面から認証する「海のエコラベル」MSC認証がスタートしている。食のグリーン購入研究会も、そろそろ活動の目玉となるような取り組みを明確にし、具体的な成果を上げる時期が来ているように痛感している。

食のグリーン購入研究会リーダー たねやグループ/額田隆義



全国の先進自治体・企業、NGO、全国の地域ネットワークが集い、
「グリーン購入法5周年記念フォーラム」にぎやかに開催！

グリーン購入法施行後5年 今後、私たちは何をめざすのか？



■日時 2006年10月25日(木)

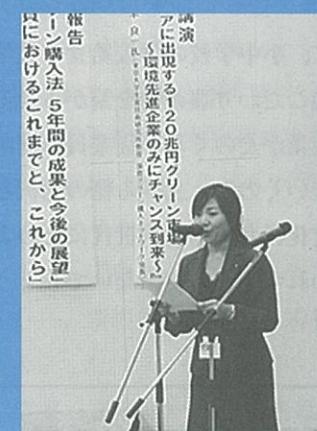
■会場 長浜バイオ大学 大講義室1

■主催 滋賀GPN、滋賀県、環境省、GPN、
(財)日本環境協会、
滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会

■内容

記念講演「アジアに出現する120兆円グリーン市場～環境先進企業のみにチャンス到来～」
講師：山本良一氏（東京大学生産技術研究所 教授、国際グリーン購入ネットワーク会長）
基調報告／「グリーン購入法5年間の成果と今後の展望」
基調報告／「滋賀におけるこれまでと、これから」
トークセッション「自治体、企業、そして消費者はどこへ向かうのか？」

グリーン購入の更なる推進を図るため、この5年間の総括と次の5年の展望を考えるフォーラムを、「びわ湖環境ビジネスメッセ2006」の併催事業として開催しました。その模様をご紹介します。



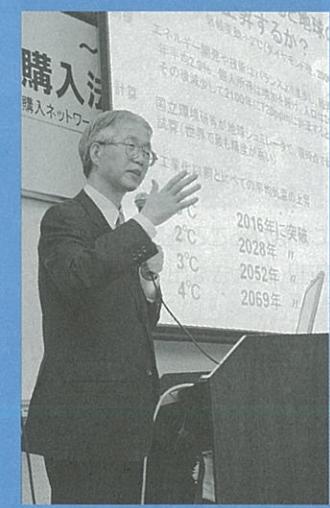
司会は大津市環境保全課の古田さん。



北は宮城、南は福岡から242名が参加。



旭化成住工 ISO・コンプライアンス推進室／松宮室長。滋賀GPNの活動と今後の展望について、会員代表で報告していただきました。



「人は物欲の塊。その欲望をいかにして環境方向にシフトさせるか」土屋代表幹事の挨拶。

「環境に徹底的に配慮した『グリーンな欲望』をかきたてることが大事。2010年までにエコプロダクツ市場を100兆円にすべき。そのためには、投資、融資を始め、エコライフ、ロハスを花盛りにする必要がある。日本はなんでも徹底的にしないことが問題。グリーン購入法においても都道府県と市町村に対してグリーン購入を義務付けるべきだ。北極の海氷が今年も72万km²溶けるようであれば、James Lovelockの予言したように「10万年間の焦熱地獄の1丁目」をくぐったというしかない。熱く語る、東京大学 山本良一教授

*ジェームズ・ラブロック氏：(James E. Lovelock) 1919年英国生まれ。生物物理学博士、医学博士。「ガイア仮説」の提唱者。



グリーン購入法5年間の成果を説明する、環境省環境研究技術室／室石室長。



滋賀県出納局管理課／小川課長補佐。滋賀県の取り組みについて報告。

総勢15名のパネリストのトークバトル

トークセッション「自治体、企業、そして消費者はどこへ向かうのか？」

「努力して草の根的な活動を進めてても、社会にビルトインされない活動を拡大するのは難しい」「環境意識の土壤作りに、『あらゆる主体の人が同じステージで考えられる』グリーン購入は非常に重要」「face to faceの情報交換が可能な地域ネットの活動が効果的」など、グリーン購入の推進について様々な意見が出されました。



～パネルディスカッションの最後に、出演者が色紙に記した自らの思い～

堀：グリーン購入は終着点ではない。

「Win-Win 誰もが笑える社会にその第一歩」

吉田：「生活者が商品・サービスをつくり広げるリスクも取る」

青山：「儲かる」なかで笑顔になりたい

秋山：どんな価値を生むかを考え「(次は)働き方を変えよう！！」

鈴木：全てのステークホルダーに対しての価値を生んでいかなければならない。

「言行一致！新たな価値の創造」

藤田：自治体の研究会で、行政の枠を超えて県全体のグリーン購入を進めていく。ネットワークの存在は大きい。「顔の見える自治体ネットワークで滋賀をもっとグリーンに！！」

小川：地域ネットワークがあるからこそ集まる。

「地域ネットワークとの連携強化⇒三方よし」

原田：何かを毎年2倍おこなっていく「×2/年」

中山：子供にも伝えていきたい「未来へ美しい国、日本を！！」

木須：「エコかっこいい」おばさんを目指します。

桜井：「選択する目を地域で広げたい（物欲は抑え気味にいきたい）」

中村：「銀行選びも環境保全の視点から～世界を変えるお金の使い方を～」同じ100円でも使い方で環境保全につながることを提供していきたい。

秋元：市場を変えるのではなく作っていきたい。「私たち消費者がグリーン市場を作る」
山岡：「21世紀日本国民全総グリーンコンシューマーを目指して」

藤井：Shopping For The Better World 「買い物が世界を変える！」



参加者が思いを記した色紙の一部



中原先生と中野さんが初コンビとは思えないチームワークの良さで、軽快にコーディネート



パネルディスカッションの様子

＜パネルディスカッションの出演者＞

●コーディネーター

中原 秀樹さん（武蔵工業大学 教授、GPN代表）

中野 栄美子さん（FM滋賀パーソナリティ、滋賀GPNサポーター）

●パネリスト

原田 和幸さん（環境省 環境経済課 課長補佐）

中山 みどりさん（三重県 環境活動室 室長）

小川 長利さん（滋賀県 出納局管理課 課長補佐）

木須 八重子さん（仙台市 環境部長）

桜井 晴幸さん（多治見市 環境経済部長）

藤田 雅也さん（草津市 環境課 専門員）

鈴木 裕章さん（イオン（株）環境・社会貢献部リーダー）

秋山 裕之さん（富士ゼロックス（株）CSR部環境経営推進グループ グループ長）

青山 裕史さん（油藤商事（株）専務取締役）

中村 知代さん（（株）滋賀銀行 総合企画部CSR室）

吉田 徹さん（滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル）

秋元 智子さん（環境ネットワーク埼玉 理事・事務局長）

堀 孝弘さん（京都GPN 事務局長）

山岡 講子さん（みやぎGPN 事務局長）

藤井 純子さん（滋賀GPN幹事（滋賀県環境生協 理事長））

Report 1 「CO2ダイエット買い物大作戦」実施 2006年10月1~31日

2006年10月、県、市町、小売店環境保全連絡会、びわ湖会議、滋賀県地球温暖化防止活動推進センター他との協力により、「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施。例年実施している店頭啓発の他に、協力小売店6店舗において啓発イベント「CO2ダイエット買い物大作戦」を実施しました。

滋賀GPNのオリジナルキャラクター「バイコットペンギン・ファミリー」が案内する形式のパネル展示、クイズラリー、エコ体験コーナー等を設置し、大好評でした。

啓発パネルは、滋賀GPN会員の皆様に貸し出しますので、社内研修、社外での展示会等にご活用いただけます。詳しくは事務局までお問い合わせください。



●「バイコットペンギン」の「バイコット」とは
buycott。バイ（買う）とボイコットからの造語で、環境
に配慮した製品・サービス、あるいは環境配慮型の経営を行
う企業の製品・サービスを積極的に購入し、購買という
行動を通じて、企業を評価すること。

Report 2 「びわ湖環境ビジネスメッセ」出展 2006年10月24~26日

滋賀県出納局・資源循環推進課・エコライフ推進課、日本まんなか共和国、GPN（全国ネット）と共に協働出展する中、会員による協力展示でグリーン購入の普及啓発を行いました。また、毎年好評の会員ブース連携スタンプ＆クイズラリーも実施し、会場を盛り上げました。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



エコに学べ！

天然素材・ホタテ貝殻へのこだわり—人と環境に優しい商品開発とその取り組み

有限会社ブルーム 代表取締役 上月 忽さん

■ホタテ貝殼との出会い

そば屋店主の私が、化学調味料を使うのがイヤで、ホタテの煮汁から出来る天然調味料に出会い使用した事から、焼成した貝殼の存在を知りました。その貝殼には、消臭・抗菌・遠赤外線・断熱・防音・透水・保水・防草などの機能がある事が分かり、活用次第では、素晴らしい商品になると確信したのが、私の「環境事業」への取り組みの始まりでした。

■ホタテ健康壁「あわせ」が 出来るまで

ホタテ貝殼の持つ機能を何とか活かそうと試行錯誤している時、土舗装に出会い、土が固まるのならホタテ貝殼も固まるのではないかと壁材に使えると考え、早速実験を開始しました。勿論、天然の材料で！このこだわりから、何度も試作品を作ったか計り知れません。忍耐強く実験を重ねた結果、遂に平成14年1月に、日本で初めての天然素材100%使用の左官壁材を開発。その後、現場での調合から、作業性や品質の向上を考慮し、他社の協力を得て、水でわかるだけのホタテ健康壁「あわせ」を開発しました。新築は勿論、クロスをはがさずに塗れるのでリフォームにも最適、タバコの臭いや

生活臭などの消臭、結露を抑え、カビを防止し、調湿効果もあります。また、通気性、耐火性にも優れ、シックハウス症候群で問題となっているホルムアルデヒドなどの化学物質を吸着し放出せず、安心・安全な商品です。また、天然素材・無機質であり解体時には、土に戻すこともできるなど環境にもやさしいのが特徴です。

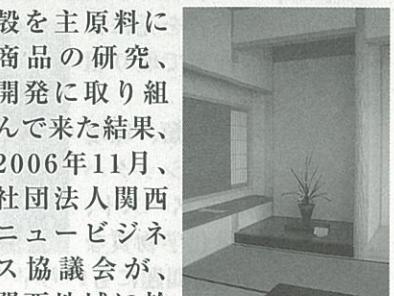
■人と環境にやさしい商品

ホタテ健康壁を筆頭に、当社は、全てホタテ貝殼を使用した循環型のリサイクル商品で、

- ①シェルガーデン（特許出願中）透水、保水、防草効果のある自然色で趣のある土舗装材
- ②ほた・くりーん（特許出願中）配管の掃除詰まり除去、消臭効果のある排水管洗浄装置
- ③スーパーほた・くん家庭用向けに開発した、天然素材100%のマルチな洗浄剤
- ④シェルグランドホコリ抑え、水はけ、防草効果のあるグランド表層改良材
- ⑤シェルグリーン土壤を膨軟し、作物の成長を促進する天然農作物成長剤

■環境ビジネス賞の受賞

天然素材にこだわり、ホタテ貝



貝殼を主原料に商品の研究、開発に取り組んで来た結果、2006年11月、社団法人関西ニュービジネス協議会が、関西地域に於いて、独創的、且つ市場性のあるビジネスを開拓している企業、経営者を選び、その事業成果に対して表彰・公表するNBK大賞の「環境ビジネス賞」を受賞することが出来ました。

今後とも、人と環境にやさしい商品を皆様にご提供できるよう、日々取り組んで行く所存です。

お問い合わせ
(有)ブルーム 守山市守山4-6-9
TEL: 077-583-3079 FAX: 077-582-0889
URL: <http://www.awase.jp>
E-mail: info@awase.jp

事務局より

「GPプラン滋賀」2007年度登録者を募集中

登録受付期間：2007年2月5日～3月30日

今年度は103事業者にご登録いただいた「GPプラン滋賀」。2月より来年度の登録受付を開始いたしました。ご希望の方にはパンフレットをお送りしますので、事務局まで必要部数をご連絡ください。

グリーン購入に取り組む上で、グリーン購入情報を把握している取引先とおつきあいすることも重要なポイントのひとつです。ぜひ、取引先に「GPプラン滋賀」をご紹介ください。

新規入会員

(2006年8月1日～2007年3月1日)

びわ湖放送（株）、（株）いづみ二一
(株)タカシタ消防、(株)國陽
(株)ヨシムラ、(株)梅沢酸素
ブンカドースポーツ
(株)ラブリーシステムイン

現会員数：402
(2007年3月1日現在)

(企業340、行政30、非営利団体32)

リレートーク Relay Talk

「だから今、グリーン購入！」

Think of Ecology ~変化し続ける地球環境 常に一步先を見つめています~

日吉は総業50年を迎える間、ライフスタイルの変遷とともに環境問題の関心は、公衆衛生から公害を経て生態へと複雑かつ多様化してきました。私たち日吉は、これらの問題に70種余りの事業許可と延べ1500名以上の有資格者を元に日夜最先端の技術で取り組んでいます。

ダイオキシン類、環境ホルモン物質、シックハウス症候群、アスベスト、その他超微量化学物質などの新たな環境問題にもいち早く取り組み、さらには国際的なヒューマンネットワークにてグローバルに地球環境問題を見つめてきました。

“はかる・みる・まもる”の総合サポートを行い、「社会立社・技術立社」の信念のもと、社会に貢献で



きるトータルエコビジネスを目指しています。

そういう大きなビジネスビジョンの中、小さな事務用品一つからでも環境を見つめていきたい、そんな取り組みが社内あちこちに根付いて

います。先ず、ひきだしの中にある文房具を集めました。使えるはずなのにひきだしの奥に眠っているボールペン、忘れ去られた付箋など、それはたくさんの宝の山でした。社員一人ひとりが、大切に物を使う、その精神で再利用を優先し、新規購入を最小限に抑える、購入時にはグリーン購入商品を優先的に、をモットーに取り組みました。備品

株式会社日吉
大角浩子さん

発注を常時大量在庫保有からネット販売に変更し、今要るものを必要な分だけ部署単位で注文する。その成

果が、“無駄遣い”を意識する集団へと変わりました。地球の資源には限りがあります。エコビジネスの日吉だからこそ、社員一人一人が地球に優しくありたいと考えています。

次回は、株式会社 琵琶湖ホテルさんにお願いします。

株式会社日吉
〒523-8555 近江八幡市北之庄町908番地
TEL : 0748-32-5111 (代)
FAX : 0748-32-3339
URL : www.hiyoshi-es.co.jp
E-mail : info@hiyoshi-es.co.jp



会員発工コ商品情報

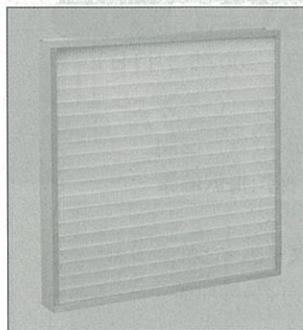
環境対応100%紙製のクッション封筒「ジフィーパデット」(株)タマヤ



丈夫なクラフト紙の二重封筒に、新聞、雑誌の古紙を再利用した緩衝材をサンドイッチした、紙製の包装材です。リサイクルの際の分別も容易、廃棄や焼却も紙としての処理が可能。開口部には細かい山型カットを施し安全性を考慮、緩衝性と強度は抜群で、特に重量物の送付に最適です。

送りたい物を封筒に入れるだけですので、段ボール箱のように組み立てる手間や空間への詰め物は不要で人件費の大幅削減につながります。また大量の詰め物をした梱包物とは違い、すき間から小さい内容物を探す手間もなく受け取り先から喜ばれる包装材です。

〈お問い合わせ〉(株)タマヤ
東近江市八日市東浜町5-31 TEL : 0748-22-3088



エコスペックフィルタ

ミドリ安全(株)は、フィルタ製造部門におきまして、業界に先駆けペットボトル再生材料を使用した中性能フィルタ「エコスペックフィルタ」を開発いたしました。

一般ビル、工場などの空気調和用、各種製造装置の空気処理用として多方面で広く使われている今までの中性能フィルタを、ろ材全体の約30% (ペットボトル6本分相当) にペ

ットボトル再生材料を使用した「エコスペックフィルタ」に置き換えるだけで、性能等は

変わりなく、簡単に環境に配慮できるという画期的な商品です。

この商品はペットボトル協議会の認証取得済です。

〈お問い合わせ〉ミドリ安全滋賀(株)
栗東市下鈎351 TEL : 077-552-6461

ミドリ安全滋賀(株)

編集・発行／滋賀グリーン購入ネットワーク事務局

〒520-0807
滋賀県大津市松本一丁目2番1号 大津合同庁舎6階
TEL.077-510-3585 FAX.077-510-3586
E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:<http://www.shigagpn.gr.jp/>

デザイン／うーび企画
印 刷／株式会社スマ印刷工業
このニュースレターは、GPN-GL14「オフセット印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。
用紙:古紙配合率100%、白色度70%「OKプリント上質エコG100」
(王子製紙) イキイレベル2に該当する植物油含有量20%以上
「FUSION G SOYOL」(日本インキ)

GPN Green Purchasing Network
印刷サービス
印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます